

新しい芽生え、悪循環を打ちきる力、社会主義を勝利させる高い労働生産性

問題の本質をとりあげてみるならば、新しい生産様式が、ひきつづく幾多の失敗と誤りと逆転を伴わないで、一気に根づくことが、はたして歴史上にあったであろうか？ 農奴制が没落してから半世紀たっても、ロシアの農村にはまだ農奴制の遺物がすくなくならずのこっていた。アメリカで黒人奴隷制が廃止されてから半世紀たっても、黒人の地位は依然としてしばしば半奴隷的であった。メンシェヴィキとエス・エルをもふくめたブルジョア・インテリゲンツィアはその本領どおりに、資本に奉仕し、徹頭徹尾、虚偽の論証をつづけている。プロレタリアートの革命のまえには、彼らはわれわれを空想主義だといって非難したが、革命後には、われわれに、過去の痕跡を信じられないほどはやくなくすように要求している！

しかし、われわれは空想家ではない。われわれはブルジョア的「論証」の真の価値を知っており、また変革後のある期間は、慣習のなかのこる古いものの痕跡が新しいものの芽ばえよりも優勢であるのは避けられないことを知っている。新しいものが生まれたばかりのときには、いつでも古いものが、しばらくのあいだ、新しいものよりも強い。自然でも、また社会生活でも、いつもそうである。新しい芽ばえの弱さにたいする嘲笑、安っぽいインテリゲンツィア的懐疑主義、等々は——すべてこれらのものは、実は、プロレタリアートにたいするブルジョアジーの階級闘争のやり方であり、社会主義にたいする資本主義の防衛である。われわれは、新しい芽ばえを入念に研究し、もっとも注意ぶかくそれを取りあつかい、あらゆる方法でその成長をたすけ、そしてこの弱い芽ばえを「いたわりそだて」なければならない。そのうちのいくつかが枯れてしまうことは避けられない。まさに「共産主義土曜労働」がとくに重要な役割を演じるであろうと、保障することはできない。問題はそこにあるのではない。新しいもののありとあらゆる芽ばえを支持することが問題なのであり、そのなかから生活は、もっとも生活能力のあるものをえらびだすのである。もし日本の一学者が、人々が梅毒を征服するのをたすけるために、一定の要求をみだす 606 号目の薬品をつくりだすまでに、605 種の薬品を試験するだけの忍耐をしたとすれば、資本主義を征服するという、より困難な任務を解決しようとのぞむものは、もっとも適当な闘争のやり方、方法、手段をつくりだすために、何百回何千回となく、新しい闘争のやり方、方法、手段をためすだけの、根気づよさをもっていなければならない。

「共産主義土曜労働」は、それをはじめたのが、けっしてとくによい条件のもとにおかれている労働者ではなく、専門のない労働者、つまり**普通の**、すなわち**もっとも困難な**条件のもとにおかれている雑役工もふくめて、種々の専門をもった労働者であるからこそ、きわめて重要なのである。われわれはみな、ロシアだけでなく全世界に見られる労働生産性の低下の根本条件をよく知っている。それは帝国主義戦争によって引きおこされた零落と窮乏化、憤激と疲労、疾病と栄養不良である。この最後のものが、重要性からいえば第一位を占めている。飢餓——これが原因である。だが飢餓をなくすためには、農業でも、運輸でも、工業でも、労働生産性の向上が必要である。したがって、労働生産性をたかめるためには、飢餓をまぬがなければならない、飢餓をまぬがれるためには、労働生産性をたかめなければならないという、悪循環のようなものが生まれる。

だれでも知っているように、このような矛盾は、この悪循環を打ちきることによって、大衆の気分の転換によって、個々のグループの英雄的なイニシアティブによって、実践のうえで解決されている。そして、このようなイニシアティブは、こうした大衆の気分の転換を背景として、しばしば、決定的な役割を演じるのである。モスクワの雑役工や、モスクワの鉄道従業員（もちろん、その大多数のことをいっているのであって、ひとにぎりの投機者、管理員、等々の白衛派のことではない）——これは絶望的に困難な条件のもとで生活している勤労者である。たえまない栄養不良は、新しい収穫をひかえて、食糧事情が全般的に悪化しているこんにちでは、そのまま飢餓である。そして、実にこの飢えた労働者が、ブルジョアジー、メンシェヴィキ、エス・エルの悪意ある反革命的煽動にとりまかされているこの労働者が、「共産主義土曜労働」を組織し、**なんの報酬もなしに時間外労働**をし、疲れはて、栄養不良のためにへとへとになり、精根がつきていたにもかかわらず、**労働生産性の巨大な向上**を達成しているのである。これこそもっとも偉大な英雄主義ではなからうか？ これこそ、世界史的な転換の発端ではなからうか？

労働生産性は、結局のところ新しい社会制度が勝利するために、もっとも重要な、もっとも主要なものである。資本主義は、農奴制のもとでは見られなかったような労働生産性をつくりだした。資本主義は、社会主義が、新しい、はるかに高度な労働生産性をつくりだすことによって、最終的に克服されることができし、また最終的に克服されるであろう。

第 29 卷『偉大な創意』P429～431

1919 年 7 月

ポイント

われわれは、新しい芽ばえを入念に研究し、もっとも注意ぶかくそれを取りあつかい、あらゆる方法でその成長をたすけ、そしてこの弱い芽ばえを「いたわりそだて」なければならない。そのうちのいくつかが枯れてしまうことは避けられない。新しいもののありとあらゆる芽ばえを支持することが必要であり、そのなかから生活は、もっとも生活能力のあるものをえらびだすのである。

労働生産性をたかめるためには、飢餓をまぬがれなければならない、飢餓をまぬがれるためには、労働生産性をたかめなければならないという、悪循環、このような矛盾は、大衆の気分の転換によって、個々のグループの英雄的なイニシアティブによって、実践的に解決できる。このようなイニシアティブは、こうした大衆の気分の転換を背景として、しばしば、決定的な役割を演じる。

資本主義は、社会主義が、新しい、はるかに高度な労働生産性をつくりだすことによって、最終的に克服される。